



南魚沼市立ゆきぐに大和病院

認知症疾患医療センター

理念

私たちは、自然のうらおいの中で人それぞれの希望に満たたくらしを支え地域医療を推進します

基本方針

- 1 市民の安全・安心を支える医療を提供します。
- 2 患者さま中心のチーム医療を推進します。
- 3 健康増進を目指し、予防医療の充実を図ります。
- 4 確かな知識と技術を有する心豊かな医療人を育成します。
- 5 良質な医療を継続するため、経営の健全化に努めます。

南魚沼市立ゆきぐに大和病院認知症疾患医療センター
〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐 4115 番地
電話: 025-777-2111 (代表)
FAX: 025-777-5445

講演会

福祉・介護・医療従事者のための

認知症講演会・市民公開講座

長生きをするかも知れない、認知症になるかも知れない
ならば、「介護され上手」の準備をしておこう！
誰かのために学ぶのではなく、自分のために！

- 期日** 平成27年7月31日（金）
午後6時～8時（受付：5時30分～）
- 場所** コミュニティホールさわらび
- 演題** 「自分らしい生き方・逝き方を考える～介護され上手の準備～」
- 講師** 一般財団法人 長寿社会開発センター いしぐるひでのぶ 石黒秀喜 氏



講師経歴

- 1950年(昭25) 北海道の大沼公園の近くで生まれる。「千の風」訳詩の誕生地
- 1968年(昭43) 高校を卒業し国立函館視力障害センターに勤務
その後厚生労働省に転勤。省内の異動多々。
- 2003年(平15) 厚生労働省老健局介護保険指導室長
- 2005年(平17) 厚生労働省大臣官房参事官
- 2008年(平20) 厚労省を退職し、(財)長寿社会開発センターに再就職

疾患の理解：アルツハイマー型認知症

～脳の機能障害と当事者のこころ～

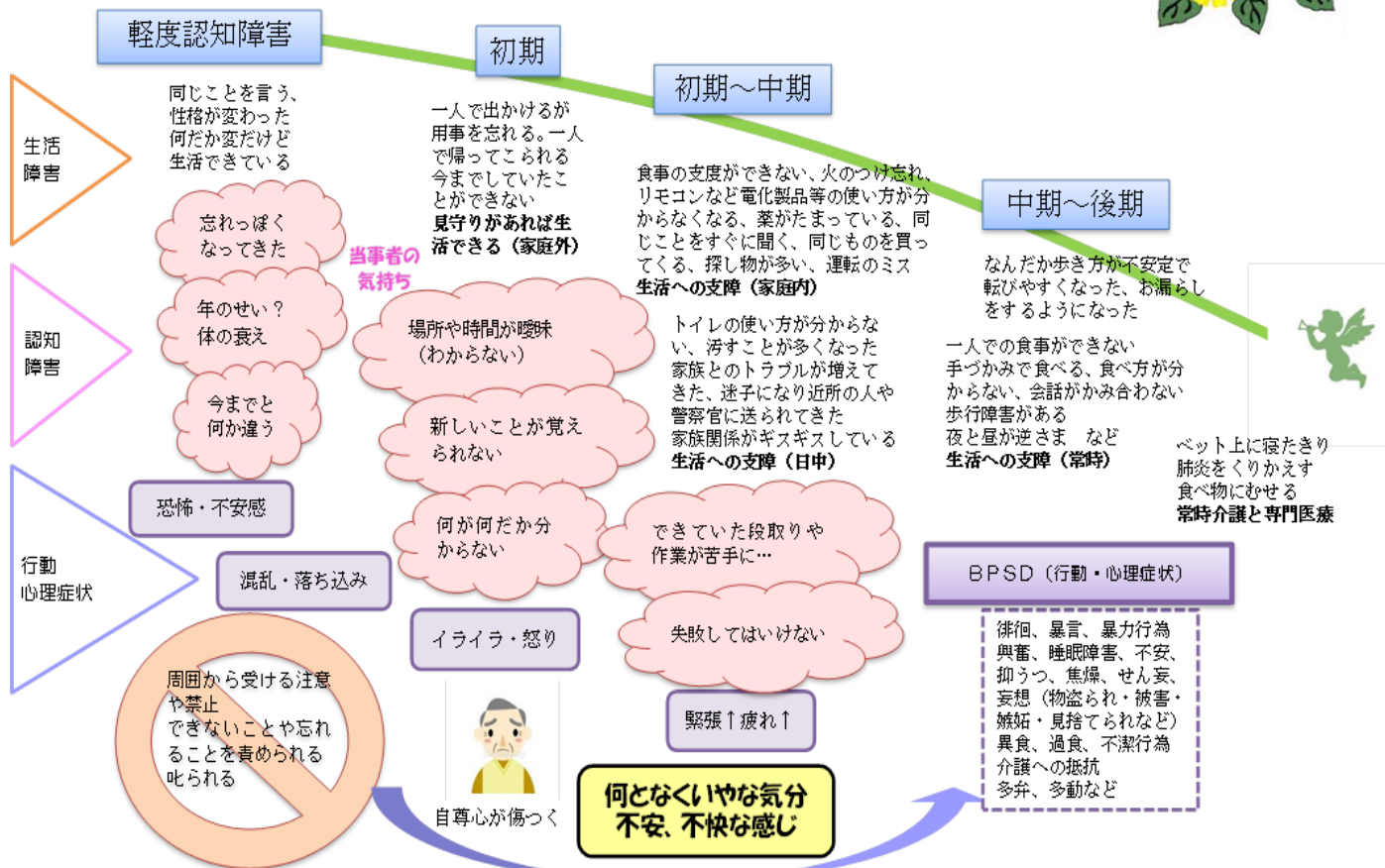


アルツハイマー型認知症は進行性の病気でその進み方は比較的ゆっくりです。発症から

3～5年は軽度、5～8年には中等度や高度に進行するとされていますが、個人差があります。

病気が進行する段階でご本人自身は体や気持ちの変化にとまどい、失敗を恐れてこれまでの人生経験を持って対処しようと努力します。それが周囲の人にとって時として「しなくていいこと」と思われたり、「わざと困らせるためにしている」と感じてしまうこともあるかもしれません。なぜそのような行動をとってしまうのか。一つ一つに理由があるはずです。

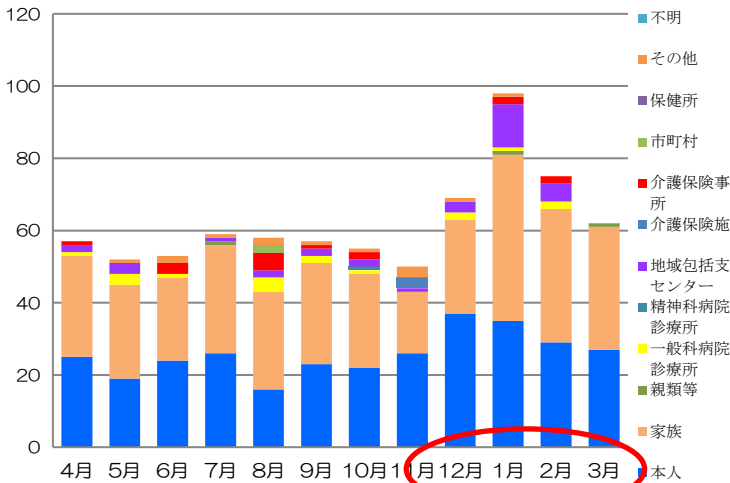
下の図は認知障害がもたらす困難や不安など当事者の気持ちの流れを表してみました。目の前に起きている事柄だけにとらわれず、その根っこにある不安や寂しさ、いら立ちに、周囲の人が心を寄せてみることで何かヒントが見つかるかもしれません。ご本人らしい日々を続けていただくあるいは取り戻し、少しでも楽に過ごすことができるように寄り添っていきたいものです。



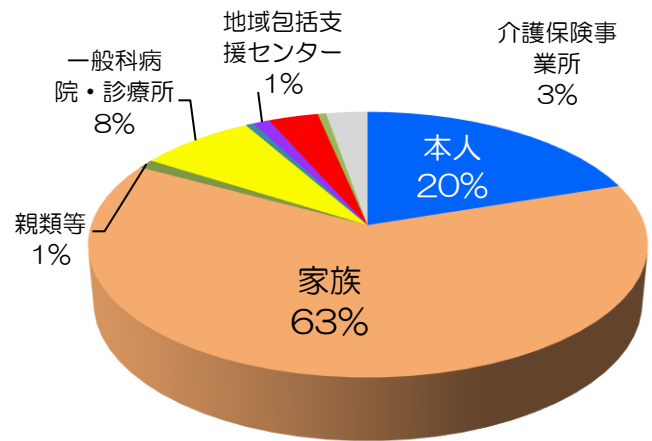
平成 26 年度の実績報告

1. 相談の状況

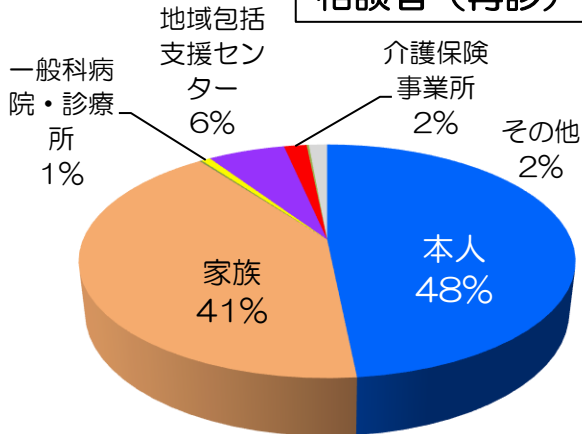
相談件数（被相談者・月別）



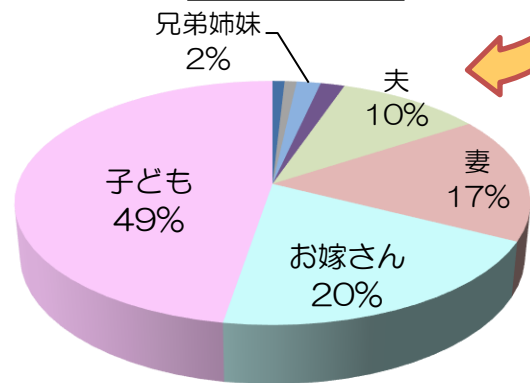
最初の相談者（新患）



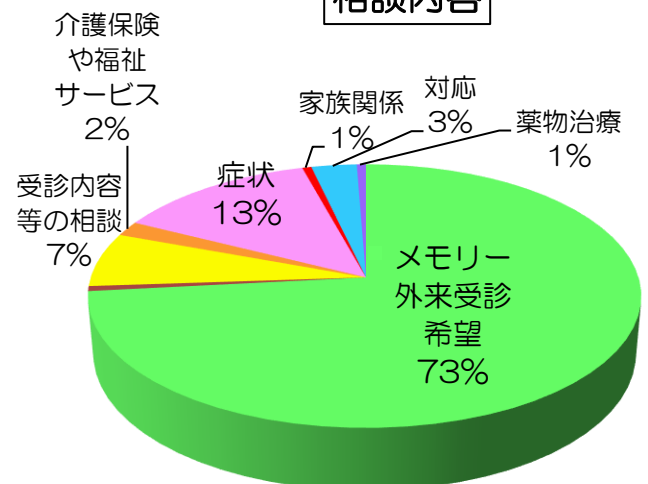
相談者（再診）



家族の内訳



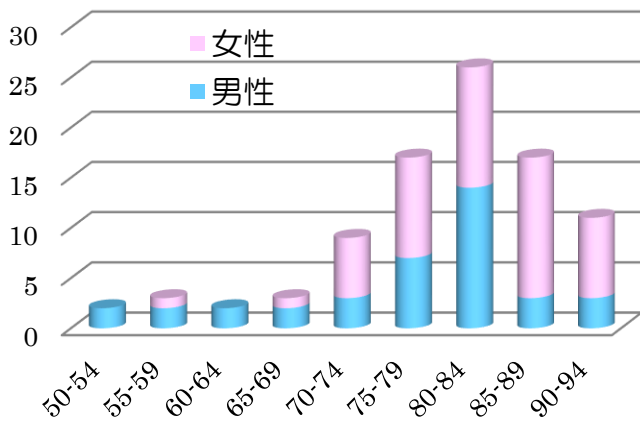
相談内容



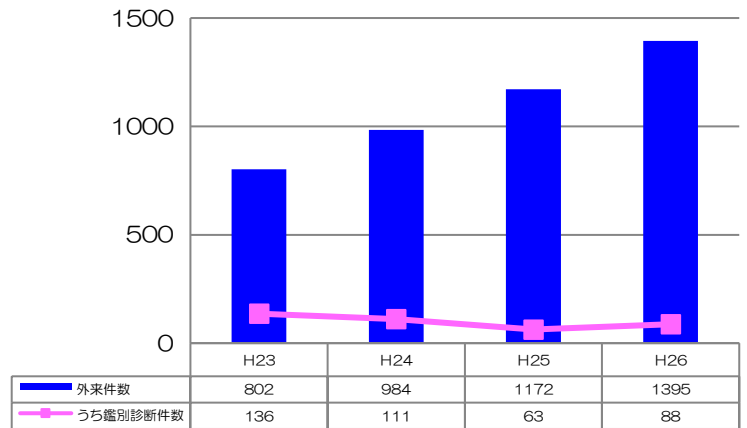
- ◇ 相談者数は延べ 745 人で昨年の 1.4 倍でした。
- ◇ 最初の相談者のご家族が 63%、ご本人が 20%で本人一人での相談は増加傾向にあります。
- ◇ ご家族ではお子さん、お嫁さんが全体の約 7 割を占めています。
- ◇ 相談時期は冬季が多い傾向です。
- ◇ 相談内容はメモリークリニック受診希望、次に症状についての相談が多い状況です。

2. メモリークリニックの状況

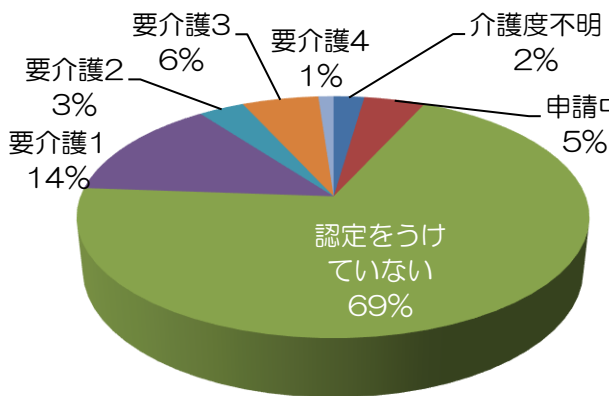
初診者の状況



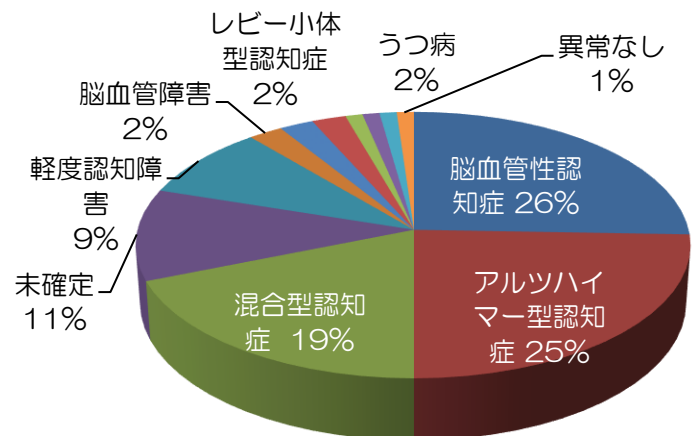
外来患者数



要介護認定



メモリークリニック受診者の鑑別診断 (初診)



- ◇ メモリークリニック受診者数は述べ 1395 人で、昨年度の 1.2 倍となり年々増加しています。
- ◇ 初診者は女性が男性より多く、平均年齢は 79.3 才でした。年代では 80~84 才が最も多くなっています。
- ◇ 鑑別診断では脳血管性認知症 26%、アルツハイマー型認知症 25%、異常なしは 1%、認知症以外（うつ・不安神経症・発達障害・せん妄など）は 6.2%でした。
- ◇ 受診者の 69%は介護保険（要介護認定）未申請でした。

受診者の転帰

